Benesse Report

データで教育を読む

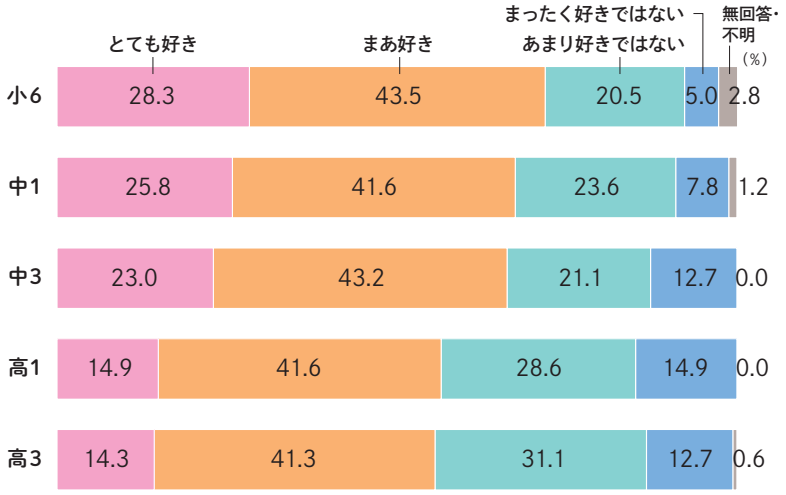
第19回

英語の授業内容と、好き・嫌いや、英語を使う意欲・学ぶ意欲との関係

小学校から高校まで英語の学習を続ける中で、英語の授業の好き・嫌いに変化はあるのか。あるとしたら、その変化は何に起因するのか。同じ子どもに対する継続調査の結果を分析し、英語の学習に対する意識を探った。

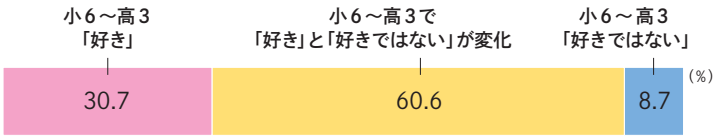
1 英語の授業の「好き・嫌い」は、高校卒業まで変化する

図1 英語の授業の「好き・嫌い」の学年推移



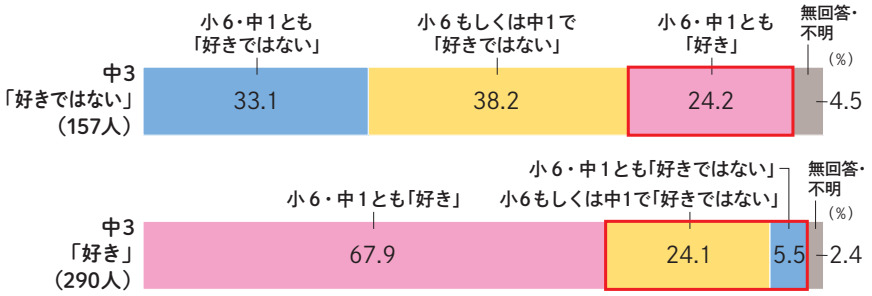
【図1・2共通】
注）「小6→中1→中3→高1→高3」とすべての調査に回答した322人から算出。なお、本調査は、中2・高2には実施していない。

図2 英語の授業の「好き・嫌い」が変化する割合



注）「小6～高3で『好き』と『好きではない』が変化」には、一部の調査回での回答が「無回答・不明」だった14人も含まれる。

図3 中3での「好き・嫌い」と小6・中1の「好き・嫌い」との関係



注）小6・中1・中3調査において、英語の授業の「好き・嫌い」について回答があった447人から算出。

子どもの英語学習に関する意識と実態について、小6～高3の7年間にわたり、同じ子どもに5回の継続調査を行った。調査対象は、小5・6の時に「外国語活動」として英語を学び、2021年3月に高校を卒業した学年である。

英語の授業の「好き・嫌い」について、回答の変化を見ると（**図1**）、小6の時は約7割が「好き」（とても＋まあ、以下同）と答えていたが、学年が上がるにつれて「好き」の割合は減っていき、高3では5割強まで減少した。

ただし、一人ひとりの子どもの回答の推移を見ていくと（**図2**）、小6～高3で5回とも「好き」と回答し続けた子どもは約3割に過ぎず、「好きではない」（あまり＋まったく、以下同）と回答し続けた子どもは1割未満だった。残りの約6割の子どもは、5回の回答が一定ではなかった。それらの結果から、英語の授業の「好き・嫌い」は変化するもので、小6～高3の間には、「好きではない」から「好き」に変わることが十分にあることが分かる。

そこで、中3時点での「好き」「好きではない」群それぞれについて、小6・中1の時の「好き・嫌い」の比率を見たところ（**図3**）、中3で「好きではない」と回答した群のうち、小6・中1とも「好き」だったと回答した子どもは24.2％だった。一方で、中3で「好き」と回答した群のうち、小6・中1とも「好きではない」と回答した子どもは5.5％、いずれかの学年で「好きではない」を合わせると29.6％もいた。好き・嫌いの意識には、その都度様々な要因が影響していると考えられるが、次に、その要因を探ってみよう。

出典 高3生の英語学習に関する調査〈2015-2021 継続調査〉

東京大学社会科学研究所とベネッセ教育総合研究所の共同研究「子どもの生活と学び」研究プロジェクトの一環として行った、「高校生活と進路に関する調査 2021」の調査項目の一部として実施したもの。全国の高校3年生991人が回答し、そのうち、「小6→中1→中3→高1→高3」と、過去のすべての同調査にも回答している322人の回答データ等を分析に用いた。

◎詳細は下記ウェブサイトをご覧ください。
https://berd.benesse.jp/global/research/detail1.php?id=5748

データ解説

ベネッセ教育総合研究所
教育基礎研究室　研究員
福本優美子 ふくもと・ゆみこ

英語教育や英語学習を中心に、子ども・保護者・教員・自治体を対象とした調査研究を担当。子どもの英語学習と指導、学校や自治体の取り組み・支援との関係性について関心を持っている。

2 授業での充実した活動が「使ってみたい」「学ぶことが楽しみ」につながる

図4 小6：英語の授業の「好き・嫌い」（授業での活動の実施状況別）

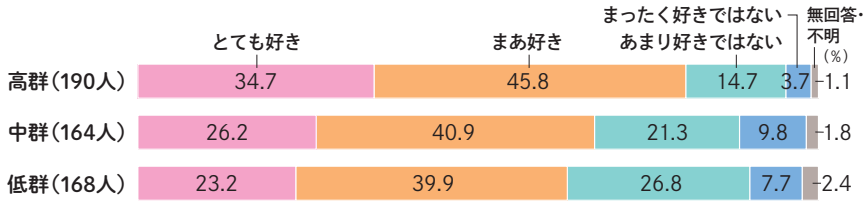


図5 小6：英語を「教室の外で使ってみたい」（授業での活動の実施状況別）

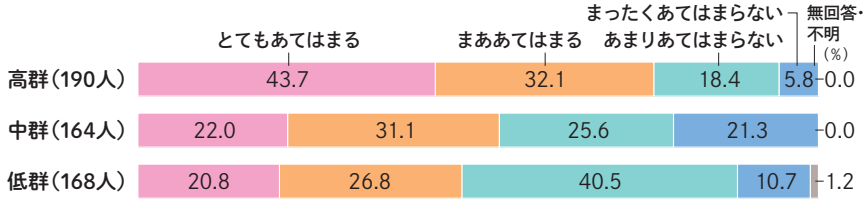
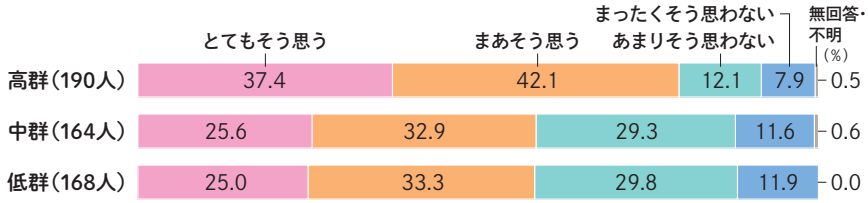


図6 小6：英語を「中学校で学ぶことが楽しみ」（授業での活動の実施状況別）



【図4～6共通】
注1）小6調査において、英語の授業での実施状況に回答があった522人から算出。
注2）英語の授業での活動の高群・中群・低群は、下表の17項目の回答を得点化（「よくしている」4点～「まったくしていない」1点）して合計し、およそ3等分したもの。

表 英語（外国語活動）の授業での実施状況を聞いた17項目

1. 英語のあいさつ　2. 英語の歌やダンス　3. 英語のゲーム　4. 英語の発音練習
5. 英語の絵本を読んでもらうこと
6. 先生の話（外国や先生のこと）を英語で聞くこと
7. 英語のことば（cat、apple など）を言う練習　8. 短い文や質問を英語で言う練習
9. 自分の考えや気持ちを英語で話すこと
10. 外国の文化や生活について調べたり、話し合ったりすること
11. アルファベットを読むこと　12. アルファベットを書くこと
13. 英語のことば（cat、apple など）を読むこと
14. 英語のことば（cat、apple など）を書くこと　15. 英語の文や文章を読むこと
16. 自分の考えや気持ちを英語で書くこと
17. 英語の文のルールやしくみについて学ぶこと

注）小6調査より

英語の授業の「好き・嫌い」と、授業内容とは、どのように関連しているのだろうか。小6時の英語（外国語活動）の授業での実施状況との関連を検証した（**図4**）。実施状況は、授業の活動内容に関する17項目（**表**）への回答を基に、高群・中群・低群の3群に分けている。17項目の活動をよく実施していた高群は、英語の授業を「好き」という回答が80.5％もあったが、中群では67.1％、低群では63.1％だった。

同様に、英語を使う意欲について見ると（**図5**）、「教室の外で英語を使ってみたい」について、「あてはまる」（とても＋まあ）という回答が、高群で75.8％と、中群（53.1％）、低群（47.6％）に比べて突出していた。

さらに、中学校で英語を学ぶことへの期待について聞いた項目でも（**図6**）、「中学校で英語を学ぶことが楽しみだ」について「そう思う」（とても＋まあ）という回答が、高群で79.5％と高かった。

以上の傾向は、中1や中3でも同様に見られた（図表省略）。従って、いずれの学年でも、その学年に適した「聞く・話す・読む・書く」を中心とした様々な活動を多く実施することが、英語の授業への肯定的な意識につながり、英語を使う意欲や、英語を学ぶ意欲を高めることにもつながると考えられる。

子どもにとって、英語の授業の時間は、英語に触れ、使うことのできる貴重な機会だ。子どもの英語の学習意欲を高め、もっと英語を使いたいという気持ちを高めるためにも、授業で様々な活動を通して英語に触れ、子ども自身が英語を使う活動をたくさん行うことが大切だと言えるだろう。